



どうなった？一般質問のその後

過去に議員が行った一般質問が、その後、町政にどう活かされたのか追跡調査をした。

布団類の回収・処分の状況について (令和2年3月)

回収の利用者は何人で、対象者枠を広げる考えはあるのか。

質問

エンディングサポート事業について (令和元年12月)

町民が高齢になっても安心して暮らせるまちづくりのために、終活支援に対する取り組みは。

実施した結果を精査して、来年度以降検討する

布団類回収事業の申請者は24名で、3日間に分けて実施した。

答弁

今後の施策として検討していく

高齢者が最後までその人らしい人生を送ることができるよう、老後や介護の意思決定を支援していくことを考える。

現在の状況は、こうなっています

高齢者ごみ出し支援として、今後検討を重ねていきたい

今後は、町の一般廃棄物処理計画による、分別収集実施時期に高齢者ごみ出し支援と併せて検討していく。



町独自の包括的なエンディングサポート・終活事業の推進に結びつくよう、事業拡充に向け検討していく

県央定住自立圏の「県央地域成年後見支援事業」において、成年後見利用制度利用促進（普及啓発）の一環として進めており、町民向けに学習会を開催するなど、先行してエンディングノートも作成している。

編集後記

年末年始、どのようなお過ごしになられたでしょうか。昨年は、新型コロナウイルスにより各種行事が中止となり、オリンピックも延期となりました。生活面でも旅行には行けない、カラオケはダメ、不自由な一年でした。議会に於いてはマスクをしながらの質問や答弁、時間を短縮しての一般質問と感染拡大防止を考えながらの一年でした。これからは、冠婚葬祭を始め様々なことが、更なる変化の一年になることでしょう。コロナに負けるな。ウイルスに負けるな。弱肉強食の動物の世界で、私たち弱い人間が生き残ったのは、助け合ったからだと言われています。助け合いの心は、人類にとつて種の保存のための本能なのかもしれない。その本能が、近年希薄化しているように思う。コロナを機に、助け合いの精神が再度芽生えることを願って。

議会広報委員会

委員長
副委員長

藤咲 美子
桜井 和子
河原 大孝
三村 信介
猿田 正純
加藤 直記